

**ウィークリーストラテジー「2004/4/12～4/16の週間展望」****人質拘束事件**

先週は途中まで順調に推移したが、イラクで日本人3人が拘束される事件が週末に起き、日本のマスコミが大騒ぎ。それらに煽られる格好で国内の投資家は、利食い売りを先行させた。前回に「全て売り込まれて仕切り直しというリスクはつきまとう。(中略)今週末には米チェイニー副大統領の来日を控えて、何かが起きる」としたが、予定通り地合いが悪くなってしまった。もっとも、東京株式市場のメインプレイヤーである外国人投資家は至って冷静。この事件の後でも寄り前に報じられる外資系証券の売買動向は大きく買い越しであった。それというのも、海外のマスコミは、今回の事態をあまり大きく取り上げず。金融マーケットでも、ほとんど話題になっていなかったと言う。為替市場ではやや円安となり、反応はあったものの、これまでのボラティリティを考えると、限定的なリアクションと言わざるを得ない。

**過熱感薄れる**

このように国内と海外で投資家の捉え方が違う背景には、米国で既に数百人もの死者が出ているため、海外の金融マーケットは、こうした問題に慣れてしまっていることが挙げられる。加えて、人質事件が他の国々にも及んでいたことをあまり報じていなかった日本のマスコミが、日本人がターゲットとなった瞬間、狂ったように騒ぎ立てたからであろう。しかし、これまで調整らしい調整を入れないうまま上昇してきた株式市場が、今回の事件をきっかけに軟調な地合いとなり、過熱感が薄らぐことは間違いないようだ。そして次の問題は、何時まで調整が続くかということ。事態の行方を見守る必要はあるが、長引いてファンダメンタルズに悪影響を及ぼさない限り、市場の強いモメンタムに押し切られて、再び指数の上昇が始まるものと予想する。そうなったときに日本のマスコミは、他人事にジビアな株式市場などと皮肉るかもしれない。

**ケースバイケース**

先週末の米株式市場は Good Friday で休場。そのために週明けの東京株式市場は、金曜日の状況を引き継ぐこととなる。人質拘束事件が新たな展開へ発展していると、地合いは大きく変化する。このような場合の対応方法として、電撃解決、事態の長期化、最悪の結果など、想定される全てのケースを考える。そして、一番高い確率で現実のものとなるの

このレポートの内容は、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決断は必ず読者ご自身で行ってください。掲載する内容については万全を期しておりますが、内容の完全性、信憑性を保証するものではなくこれらの情報によって生じた損害について当社は一切の責任を負いませんので予めご了承願います。

は、どのケースかを定めるのではなく、それぞれの場合について、どのような投資スタンスで臨むのかを具体的にキッチリ決めておくことが重要。ここから先は各投資家のポジション次第であるが、買いスタンスの場合、注目は出遅れのハイテク株と決算発表が近い証券株であろうか。また、個別に割安株は引き続き一本釣りが期待できそうだ。

### 日経平均株価テクニカル

先週の日経平均は 12000 円を固めるだけの力を見せることはできなかった。ただ、2月10日の10299.43円を起点にした上昇トレンドのリズムはだいたい1ヵ月単位のリズムとみられ、現状は第2波動が一服する日柄局面といえそう。第1波動の押し幅が500円超あったことを考慮すれば、今回の天井12119.31円からの押し幅は、まだ200円超と小さく、いったん下に数百円幅の調整継続となる可能性もある。よって、上を目指す動きになっても、大きくは伸びないと思われる。



ポイントは転換線を下回った辺りからの押し目買い。調整がオーバーシュート気味にきても、25日MAの11590.73円付近まで下がってくると期待するのは甘いだろう。月曜日以降、転換線からの乖離拡大場面を狙って新規ロングで入るタイミングを探る戦略が奏効しそう。

### 今週のキーワード「米チェイニー副大統領の横顔」

米国副大統領リチャード・ブルース・チェイニー氏が、4月10日から13日まで日本に滞在する。同氏はブッシュ政権内のタカ派として知られ、以前にラムズフェルド国防長官(同タカ派)の部下でもあった。また、イラク復興事業の多くを担った石油会社向け建設・技術会社のハリバートン社でCEOを過去に務めている。このときにナイジェリアの天然ガス開発事業を受注したハリバートン子会社がナイジェリア政府当局者に税務上の便宜を依頼するため、多額の賄賂を支払っていたことから、フランス司法当局が同氏を国際法に基づき告発する準備を進めているという報道もあった。今回の来日は、同氏がラムズフェルド国防長官とともに、以前から推進しているNMD(国家ミサイル防衛)/TMD(戦域ミサ

このレポートの内容は、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決断は必ず読者ご自身で行ってください。掲載する内容については万全を期しておりますが、内容の完全性、信憑性を保証するものではなくこれらの情報によって生じた損害について当社は一切の責任を負いませんので予めご了承願います。

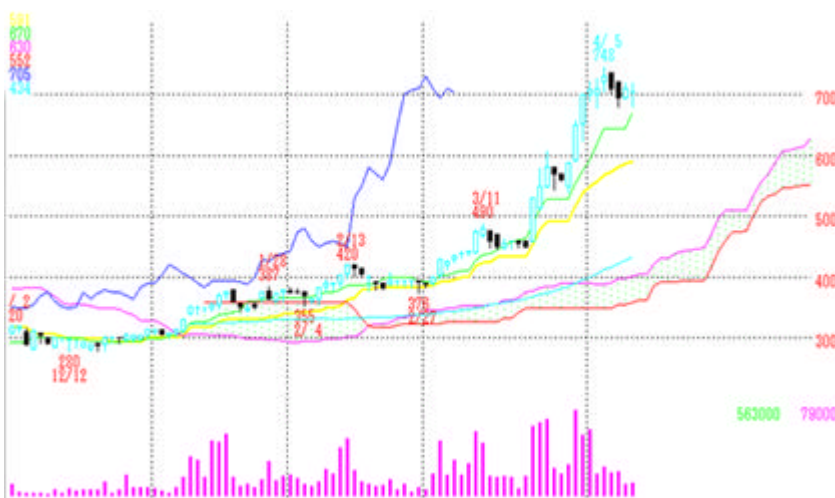
イル防衛)の両構想を実現させる目的があるとされている。

**今週の注目個別銘柄「(2362) 夢真」**

夢真の足元が好調だ。同社は月次売上高を速報ベースでディスクローズしているが、昨年10月から今年3月までの半年間の売上を順に追ってみると、表の通り、計画比ではいずれも予算を上回る推移。前年同月比でもかなり堅実かつ大きく向いてきているのが明らか。

月次売上(%)	03/10	03/11	03/12	04/1	04/2	04/3
計画比	101.5	100.9	109.1	100.9	107.2	106.9
前年同月比	108.2	107.1	118.1	111.1	113.5	117.2

同社は、施工図の作図や施工管理の請負など、建設業界でアウトソーシングビジネスを手掛ける。主要ユーザーのゼネコンが効率化のための業務のアウトソーシングを進めていることが追い風になっている。施工図作図事業は、公共投資の低迷で苦戦状態にあるが、建設施工管理業務の請負事業は高成長を続けており、今期の業績を牽引している。会社側の今9月期の連結業績見込みは、売上高42億円(前期比11.8%増)、経常利益6億6000万円(同36.9%増)、純利益4億1000万円(同36.2%増)。



株価は4月5日につけた年初来高値 748 円の高値圏でもんでいるが、利益確定売りをこなしながら、なかなか値を下げてこない。依然として25日移動平均線との乖離は大きく、先週末時点で

23.55%。もう一段の日柄待ちを想定しておきたいが、調整局面は着実に押し目待ちの買いに拾われている。700 円近辺での調整は打診買いから少しずつ仕込んでいき、中期4ケタ乗せの上昇軌道に乗りたい。

**近畿財務局長 第145号 株式会社エフピーアイ**

〒541-0041 大阪府大阪市中央区 北浜2-6-6 クリスタルタワー6F

TEL: (代表) 06-4706-7778 e-mail [info@fpeye.co.jp](mailto:info@fpeye.co.jp)

FAX: (代表) 06-4706-7016 ホームページ <http://www.fpeye.co.jp/>



このレポートの内容は、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決断は必ず読者ご自身で行ってください。掲載する内容については万全を期しておりますが、内容の完全性、信憑性を保証するものではなくこれらの情報によって生じた損害について当社は一切の責任を負いませんので予めご了承願います。